

高みを目指す



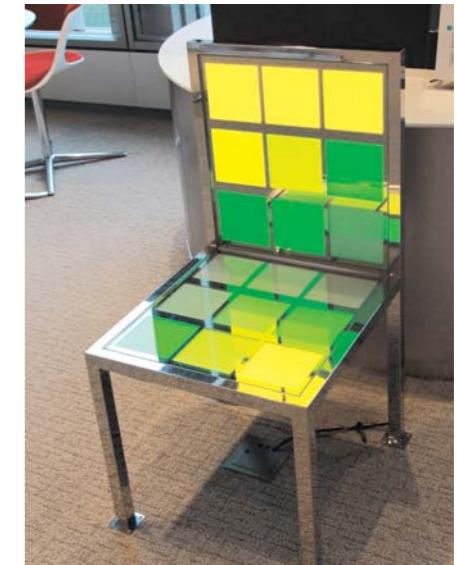
京浜工業地帯川崎地区に浮かび上がるプラント

化学産業



第44回国際化学オリンピック米国大会では日本代表全員がメダルを獲得(左から加藤さん、副島さん、山角さん、濱谷さん=5面)

有機ELの熱くならない特徴は
さまざまなデザインに活用できる(8面)



人材育成にも力を注ぐ。これからの日本を支えるのは化学であることを見越し、日本が世界をリードする技術を生み出すため、次代を担う化学好きな子どもを増やす機会を提供している。それぞれの能力を最大限に引き延ばす取り組みも行っている。国内外需要の伸び悩み、海外市場での競争激化など、日本は厳しい状況に取り組まれている。この壁を打破するために、日本が持つ化学の技術を汎用品ではなく「附加価値」として高めていくことは重要なことです。政府、企業、教育機関だけではなく、市民も化学の重要性を認識し、日本が誇る化学技術を未来へ向けて伸ばしていく。

「化学は身の回りにあふれ、どこでも手を伸ばせば触れる距離にある。生活には化学が必要で、さまざまな分野で製品の性能を高めるためにも求められる。こうした化学が持つ可能性は当たり前の存在になってしまいがちだ。液晶テレビ、電気自動車(ELV)、スマートフォン(多機能携帯電話)など、新しい製品の誕生には必ず化学産業の貢献がある。」

また、化学企業は一丸となつて環境問題の課題解決に積極的に取り組んでい

る。化学製品は省エネを実現する高機能製品の誕生を

支え、二酸化炭素(CO₂)削減の要になる。その

半面、危険性もはらんでい

るため、リスクの研究には企業が力を合わせ、取り組

んでいる。

人材育成にも力を注ぐ。

これからの日本を支えるの

は化学であることを見越

し、日本が世界をリードす

る技術を生み出すため、次

代を担う化学好きな子ども

を増やす機会を提供してい

る。それぞれの能力を最大

限に引き延ばす取り組みも

行っている。

国内外需要の伸び悩み、海

外市場での競争激化など、

日本は厳しい状況に取り組

まれている。この壁を打破

するために、日本が持つ

化学の技術を汎用品にな

り、「附加価値」として高めて

いくことは重要なことです。

政府、企業、教育機関だけ

ではなく、市民も化学の重

要性を認識し、日本が誇る化

学技術を未来へ向けて伸ばしてい

いく。

企業が誇る化学技術を

未来へ向けて伸ばしていく。

企業が誇る化学技術を

未来へ向けて伸ばしていく